

## 第 22 回 SAT 賛助会員交流会（2 月 14 日（金））開催報告

賛助会員交流会は SAT を支援していただいています賛助会員企業同士および賛助会員企業とつくばの研究者および参加者との交流会です。今回は下記の要領で、賛助会員企業 3 社から事業紹介をいただくとともに、つくば研究者講演として、産総研の名誉リサーチャー 加藤<sup>ひろかず</sup>碩一氏（地質学者 宮沢賢治賞奨励賞受賞者）に「宮沢賢治の「地」的世界 ～文学と地質学との異分野融合～」と題して講演いただきました。参加者は 25 名でした。

### 記

日時 2020 年 2 月 14 日（金） 午後 1 時 30 分～6 時 30 分

会場 つくば国際会議場 303 室 および サロンレオ

#### I. 交流会（つくば国際会議場 303 室） 午後 1 時 30 分～4 時 45 分

・開会挨拶 岡田雅年つくばサイエンス・アカデミー副会長

・賛助会員事業紹介（質疑応答含め各 30 分）

① 株式会社池田理化 営業部 部長 涌嶋 稔氏

「株式会社池田理化の事業紹介」

② 関彰商事株式会社 総合企画部 副部長 上村祐一氏

「ベトナムの概況と当社のベトナム事業の概要」

③ 株式会社常陽銀行 地域協創部 部長 川島弘行氏

「常陽銀行の概要と地域協創部の役割」

・休憩

・つくば研究者講演（演者紹介・講演・質疑含め 60 分）

産業技術総合研究所 名誉リサーチャー 加藤碩一氏

「宮沢賢治の「地」的世界 ～文学と地質学の異分野融合～」

・閉会挨拶

#### II. 懇親会（サロンレオ） 交流会終了後 午後 5 時～6 時 30 分

第 I 部の交流会での賛助会員企業からの事業紹介およびつくば研究者の講演概要は以下の通りです。

#### 賛助会員事業紹介

① 株式会社池田理化 営業部部長 涌嶋 稔氏

「株式会社池田理化の事業紹介」



概要) 当社は、高い専門知識と最新の技術情報をもとに、各研究機関のニーズに沿った実験機器の提案をするほか、研究環境をトータルで提案・提供している理化学機器の商社です。1931年の創業以来、研究者一人ひとりの立場に立って最適なソリューションを提供できるよう、一番近くで寄り添い続けてまいりました。80年代にライフサイエンス分野へ事業を特化し、「バイオの池田理化」として認知され、おかげさまで業界トップクラスの企業として、今なお成長し続けております。池田理化だからこ

そ提供できる「揺るがない価値」とは何か、今回はそういった研究背景と、弊社支援活動の一部をご紹介します。

具体的には若手研究者のポスト不足、公的研究資金の「選択と集中」の中での格差の増大、研究時間の減少があり、研究者になりたい人材の減少から、科学立国の国力低下につながる恐れがあるなど、研究者を取り巻く環境の変化に対して、研究者支援のための取り組みとして、若手研究者と再生医療研究を支援する「池田理化賞」、研究者と企業をつなぐ「L-RAD」、機器をシェアする「SimpRent」などについて説明がありました。

会場からは、「L-RAD」「SimpRent」などについてより詳細を説明して欲しいとの質問とともに、企業のバイオ分野研究者支援の取り組みへの賞賛の声もありました。

## ② 関彰商事株式会社 総合企画部 上村祐一氏

### 「ベトナムの概況と当社のベトナム事業の概要」



概要) 当社は2016年4月にベトナム・ハノイに進出し、同年6月に駐在員事務所開設、翌2017年7月に現地法人 SEKISHO VIETNAM Co.,Ltd. を設立いたしました。またハノイ進出以来、日系企業に対して人材紹介とシステム開発のサービス提供、ハノイ工科大学など現地大学において学生と企業の就職マッチングイベントである SEKISHO JOB フェアの開催及び採用のサポートなどを行ってまいりました。今回、当社

からはこれまでのベトナムでの活動経験を元に、ベトナム社会主義共和国の概況と当社のベトナム事業の概要を苦労話も交えて紹介します。

具体的には安定した政治情勢の下で、若くて（平均年齢31歳）豊富な人材、IT系など理系人材の能力の高さ、自然災害が少ない、安い電力料金などの魅力とともに、経済圏の南

北分断による非効率性、税務手続きの煩雑さ、不透明な商習慣などのリスクが紹介されました。

会場からは進出先としてベトナムを選んだ理由、ベトナムの鉄道建設を含む交通・大気環境事情についての質疑がありました。

### ③ 株式会社常陽銀行 地域協創部 部長 川島弘行氏

#### 「常陽銀行の概要と地域協創部の役割」



概要) 銀行の役割が預金・貸出金中心の伝統的な機能から、総合金融サービス業へと変化しており、当行が目指す総合金融サービス業としての4つの協創力の発揮(①課題提起～地域との積極的な課題共有、②ネットワーク構築～地域内でのつなぐ力の強化、③情報開発～情報ハブ機能の再構築、④知見活用型～産学官金連携の促進)が必要です。そして、協創力の発揮を事業領域

として展開していくために「地域協創部」を平成26年度に新設。

その地域協創部の取り組みを、①ものづくり、アグリビジネス、環境・再生エネルギー各分野など成長産業支援、②ビジネスコンテスト、ファンドなどを活用した創業・新事業創出支援、③企業誘致活動の推進、④地域の社会資本ストックのマネジメント支援について紹介します。

会場からは実績の高い県内への企業誘致への銀行の役割、地域協創部としての課題、SATに期待することなどの質問がありました。これに対して、「地域協創部の目標は伝統的な銀行機能(預金・貸出金・為替)から地域・お客様にとっての価値ある事業の創造に重点が移動し、息の長い仕事であるが、同時に短期的な成果も求められる。このあたりをどう折り合いをつけていくのかなどが課題。また、SATへの期待としては今回の交流会などでの異分野の企業との交流。」とのことでした。

事業紹介の中で、地域銀行が大きく変化しつつあることを、アグリビジネス支援、ものづくり企業支援および創業支援の具体的な取り組みを聞く中で、また例えばつくば国際会議場で開催されます「食の商談会」などの盛り上がりを見ていましたので実感することができました。地域協創部を中核とした今後益々の地域協創力の発揮に期待したいと思いました。

## つくば研究者講演

産業技術総合研究所 名誉リサーチャー 加藤 碩一氏

(宮澤賢治学会イーハトーブセンター理事、宮澤賢治賞奨励賞受賞(花巻市、2007年))

「宮澤賢治の「地」的世界 ～文学と地質学の異分野融合」



概要) 岩手県・イーハトーブの花巻に生まれ育った宮澤賢治は、幼少時には「石っこ賢さん」とあだ名されるほどの石好きでした。長じて盛岡高等農林学校地質及土壌教室に入学し研究科まで進学して、専門的な教育を受け、地質・土性調査で岩手山・北上山地・種山が原などなどの野山を駆け巡りました。そうした経験が、かれの作品世界に独特の風合いをもたせていること

は自明です。例えば、鉱物の名前だけでも70種以上登場し、他に例がありません。いわば、文学と地質学との異分野融合を遂げた彼の作品世界を演者の専門とする地質学の観点から紐解き(ひもとき)、一緒に渉猟(しょうりょう)しようと思います。

まず、地質学の分野では新たな学際領域として文化地質学が近年話題になっていますとの話から始まり、賢治文学において使用されている鉱物性色彩語(鉱物の持つ色を使った表現)について、明け方から夜までの日の移ろい、水・氷・海・湖・川、花、雲・煙などに分類して紹介されました。その中で明け方の明るさに関しては、有機樹脂の化石である温か味のある琥珀で、黄色味を帯びた夕方の黄昏には無機物である冷たい触感を持つ黄水晶で表現しているとの説明が印象に残っています。また鉱物の変質を病気、地史・古生物に見る流転を絶滅種として表現しているなど幅広い賢治の地質への知識が紹介されました。同時に地質学的現実(リアル)と虚構(フィクション)もあることも現在の地質学の立場から指摘がありました。



会場からは丸山先生が「質問ではありません。大変楽しい、詳しい話ありがとうございました。私は6歳から石拾いをしています。今日加藤先生の話に出てきたすべての石は持っています。」とのことでした。私からすると珍しい石も多く、すべて持っていますということにびっくりでした。また金を産出する地層に共通点はありますかという質問もありました。

## 第II部 懇親会

懇親会は会場を4階のサロンレオに移して行われました。

新山 哲つくばサイエンス・アカデミー (SAT)総務委員からの開会の挨拶と乾杯の音頭で始まりました。講演者を中心とした輪ができ、事業紹介の内容に関する突っ込んだ話や賛助会員交流会の持ち方などを話題に参加者の交流がありました。中締めはほぼ時間通り、加藤碩一先生にお願いしました。

今回の賛助会員交流会はつくば研究者講演をお一人の先生に一時間お願いし、内容も「宮澤賢治の「地」的世界 ～文学と地質学の異分野融合」といった気楽にお聞きいただく内容としました。懇親会の中での、あるいは後日メールいただいた方からの意見では、「今までの様に直接研究に関係する内容も良いが、今回の講演の様に多少リラックスして聞くことができる研究者講演も良いと思いました。」とのことでした。今後の参考にしたいと思っています。